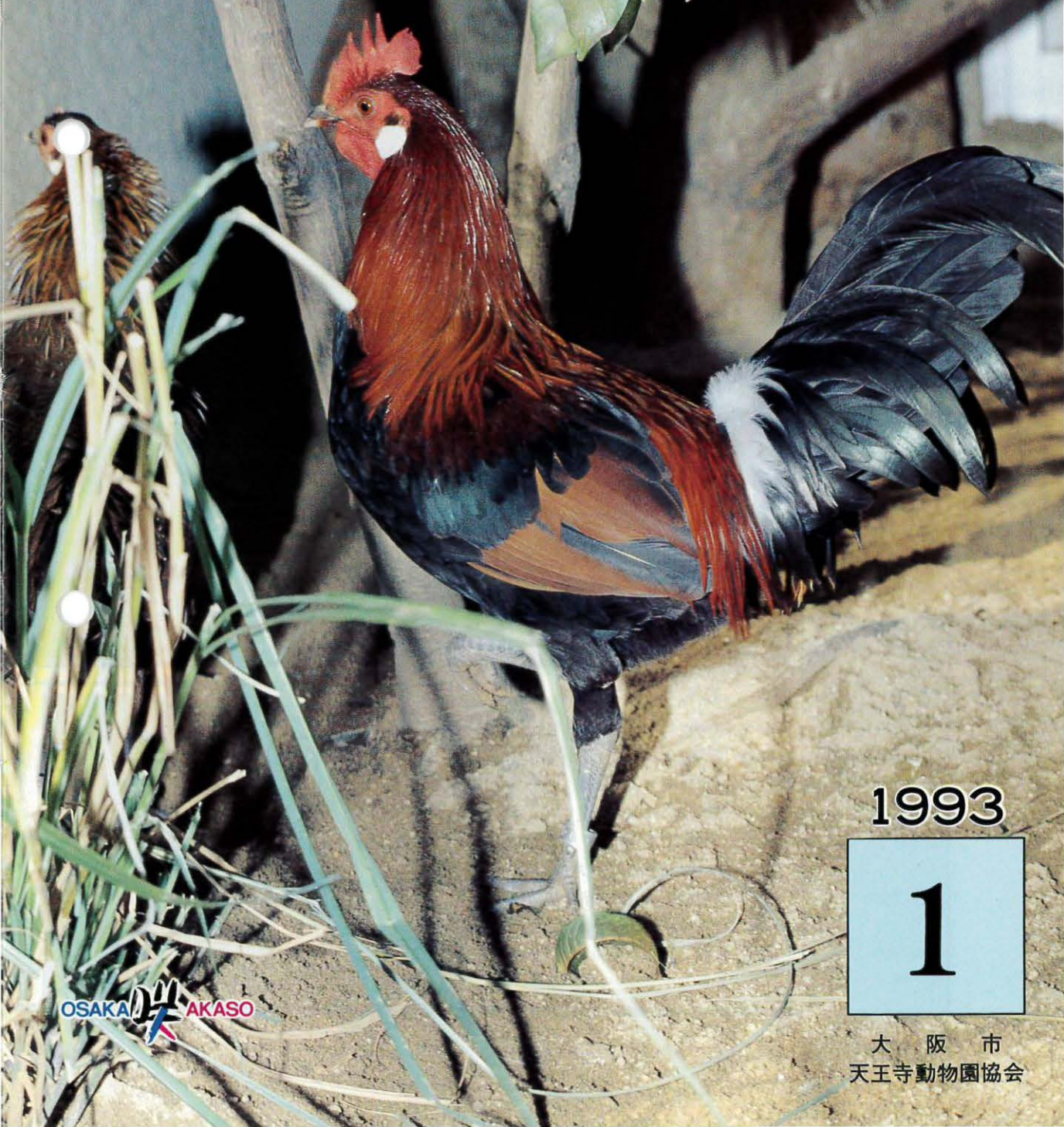




なきごえ

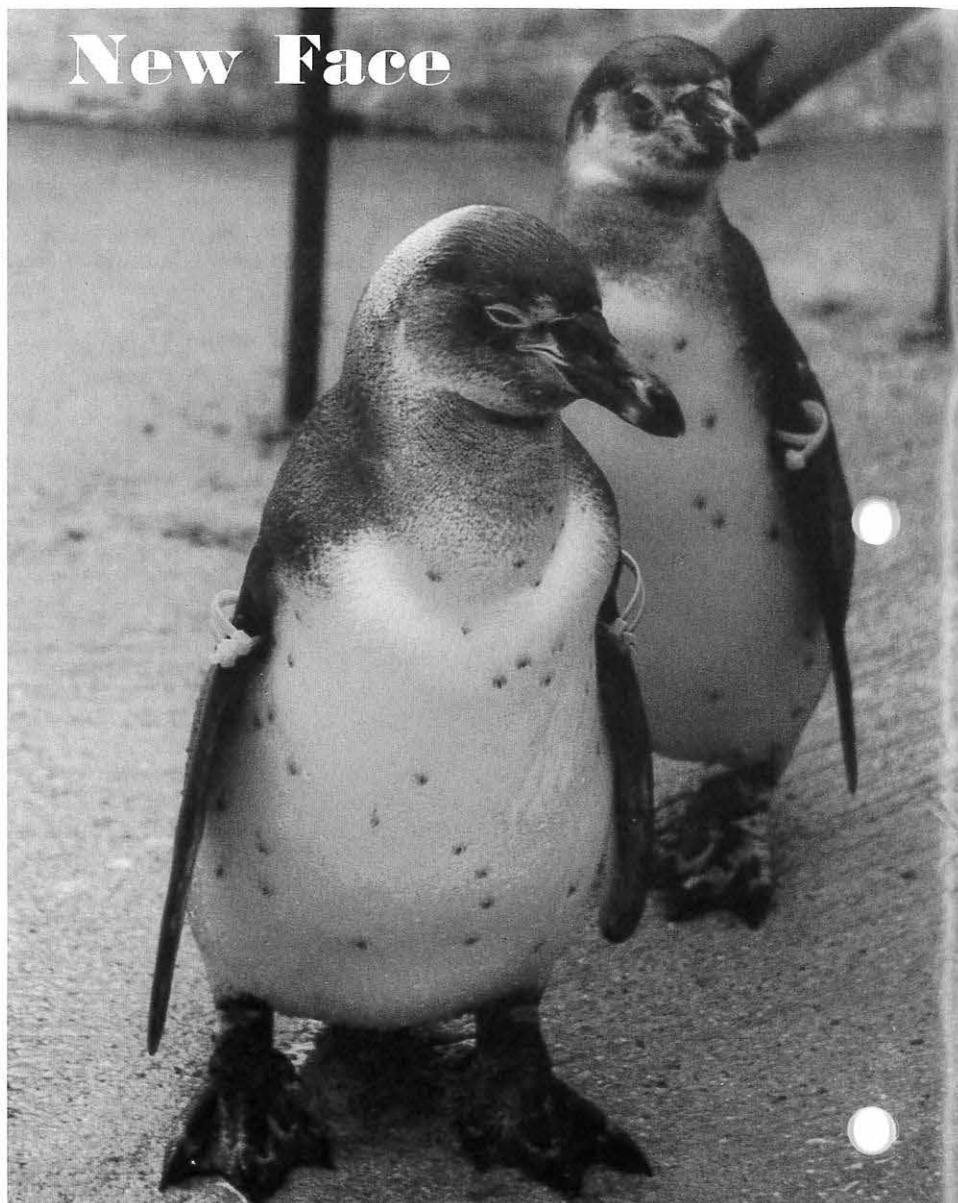


1993

1



大阪市
天王寺動物園協会



もくじ

- 2 — New Face フンボルトペンギンがやってきた
- 3 — 動物と私 ヤケイとニワトリ (森岡弘之)
カバーウォッチング セキショクヤケイ
- 4 — 鶏と人 (西田隆雄)
- 6 — 今年はキジ年? (西田俊広)
- 8 — グラフZOO キジの仲間たち
- 10 — 公園花だより⑧ 春の七草
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

セキショクヤケイ キジ目 キジ科

Gallus gallus

今年の干支は酉。一見ニワトリに見えるこの鳥は、インド東部から東南アジアに生息するキジ科の仲間、ニワトリの原種と考えられています。

(撮影：竹田正人)

||||| 動物と私 |||||

ヤケイとニワトリ

ニワトリの祖先はヤケイ(野鶏)です。ヤケイの仲間にはセキショクヤケイ、ハイイロヤケイ、セイロンヤケイ、アオエリヤケイの1属4種があり、インドから小スンダ列島までの間の南アジアに分布しています。

一部の学者はセイロンヤケイやアオエリヤケイの血もニワトリの中に入っていると考えていますが、多くの方はセキショクヤケイだけをニワトリの原種と認めています、セキショクヤケイ以外の形質がニワトリに存在するとしても、それはセキショクヤケイが家禽化された以後に獲得されたものでしょう

セキショクヤケイ(以下単にヤケイという)はヒマラヤおよびインド東部からバリ島まで分布し、さらにフィリピンやミクロネシアその他の地域に輸入されています。私が調査したタイ、ビルマ、西マレーシアなどではふつうに見かけましたが、非常に臆病なうえとてもすばしこく、捕獲するのに苦労しました。現地の方は、ヤケイの現れる場所にワナをしかけて捕獲します。しかし、たとえ捕えることができても、ヤケイとニワトリ(在来鶏)の野生化したものとの区別は容易では



森岡弘之さん (国立科学博物館 動物第一研究室長)

ありません。ヤケイは、一般に在来種より体が小さく、トサカ小さく(または厚みが薄く)、蹴爪が細長く鋭く尖っています。

ヤケイの主な生息場所は、村はずれのジャングルや竹林とその周辺の広場です。ジャングルとは灌木や雑草や刺植物がびっしりと生え、人が侵入できないような場所で、原生林ではありません。熱帯多雨林の内部はうす暗く、湿っていて、コシアカキジの仲間には出合いましたが、一般にキジ科の鳥はすんでいません。特にヤケイの生息環境は、開けて明るい乾燥した場所です。ヤケイは屈強な雄を中心とした群生活を営んでいて、危険を感じるとジャングルに逃げ込む術に長けています。温帯林を主な住処とするキジ類と比べて、ヤケイの生息環境はきびしいものと考えられます。それがキジ科の中でもヤケイ独特の生活様式や行動形態を発達させ、その上に家禽化の歴史が作られたのです。

例えば、鳥類は一般に早寝早起きですが、ヤケイは特に早寝早起きです。われわれが一日の調査を終えてシュラフにもぐり込む頃には、彼らは鳴き出します。そして、午後3時頃にはトヤに入った例があります。昼と夜の捕食者の活動のすき間に活動する戦略なのかもしれません。

とにかく、時をつくる習性が各地のさまざまな伝説を生み、家禽化のモチベーションのひとつもなったのでしょう。日本でも、天の岩戸の話に地鶏がからんでいます。

ヤケイ類は種分化の研究のうえでも貴重な材料です。すなわち、ヤケイ類4種の分布域はセキショクヤケイとアオエリヤケイがジャワ島とロンボク島だけで重複していて、この2種間にだけ生殖隔離が生じているのです。ヤケイとニワトリは研究するのが意外とむずかしく、しかし非常に面白い鳥と言えます。

← フンボルトペンギンがやってきた ペンギン目
ペンギン科

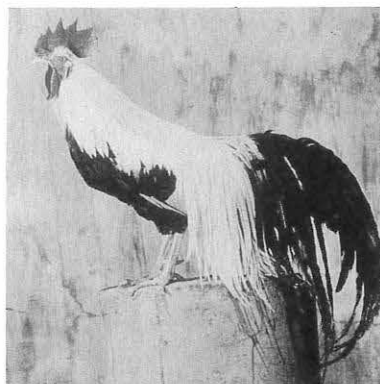
ペンギン舎にフンボルトペンギンの新しい仲間4羽がやってきました。これで8羽の群ができました。まだ去年生まれの幼鳥ですが、将来沢山の二世が誕生するものと楽しみにしています。



鶏と人

西田隆雄 (農獣医学部大教授)

十二支の十番目の酉は鶏をさし、古くはカケと呼ばれていましたが、その枕詞であったニワトリが現在の呼称となっています。鶏の野生原種は野鶏です。この属に含まれる4



タイ東南部の赤色野鶏の♂。

種のうち赤色野鶏(写真上)が家畜化されて、今日の鶏になったと考えられています。赤色野鶏の生息地は、インドから東南アジアに至る広大な熱帯降雨林で、これらの森では涼しい朝夕には、雄鶏の特徴的な鳴き声を聞くことができます。森のまわりの村落で家畜化された鶏はインド、中国などを經由して世界中に広がっていきました。今から約40,00年前のことです。日本へは稲作農耕文化とともに渡来したと考えられていますが、確かな渡来の時期もルートも判っていません。少なくとも古事記(712年)と日本書紀(720年)の記録によって、神話時代に常世の長鳴鶏がいたという考えは誤っています。

古墳時代の陵墓に陪葬されている鶏の埴輪と出土遺骨は、この時期に広く我が国に鶏が飼われていたことを示しています。鶏埴輪は北は山形から南は大分に至る22府県から出土し、鶏の遺骨の計測の結果は地鶏型の鶏だけではなく、もっと大きいシャモ型のももこの時代に飼われていたという興味ある事実を物語ってくれます。

日本の鶏

近代化された都市生活だけではなく、農村生活でも効率のよい養鶏産業が主流となってしまった現状では、鶏と人間との直接の関わりはほとんどなくなっています。冷蔵庫内に配架された整一な卵とフリーザーのパーツ化された鶏肉は、戦後欧米で育

種された卵と肉のそれぞれ専門の銘柄鶏のもので、日本鶏とは無縁のもので、日本鶏とは我々の祖先が日本の風土のなかで、長い年月をかけて育ててきた我が国固有の鶏種をいい、そのほとんどが愛玩鶏です。

日本鶏の成立過程についての小穴の考証(日本鶏の歴史、1951年)を図にしたものが図1です。この図をみると日本の固有鶏種とその相互関係が一目で理解されます。地鶏について確かなことは古墳時代にいたということだけですが、最も早く渡来したものであることは間違いありません。平安時代に入って中国から長鳴鶏が、その正しく時



小国(白藤)の♀。

を告げる性質と闘鶏としての優れた資質を買われ、遣唐使によって持ち帰られたという。この鶏群は積み出された港、昌国の名をとって小国(写真上)と呼ばれるようになり、地鶏あるいは後に入ってきたシャモ、大唐丸と交配され多くの日本鶏を作り出しました。

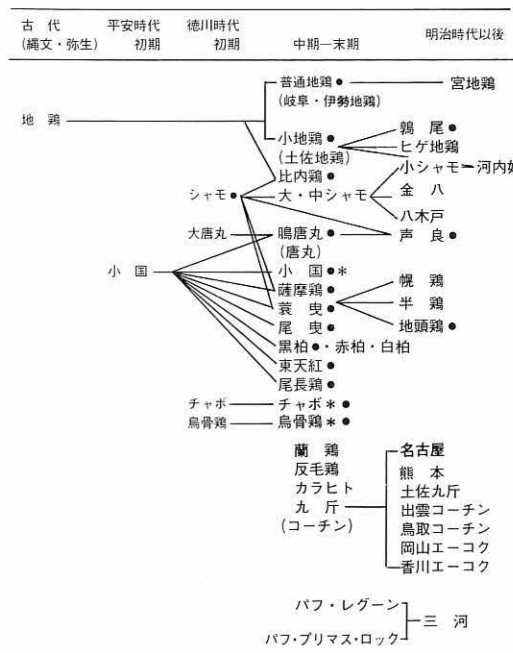


図1 日本鶏の系統図、*は渡来当時から今日にいたるもの、●は天然記念物に指定されたもの(小穴、1951年、藤尾、1972年)。

現在、国が天然記念物に指定し保護している日本鶏は17種(地鶏は一括、図1参照)あり、小国がその成立に関係した鶏は実に10種をしめています。小国の長鳴性に磨きをかけて東天紅と黒柏、豊かな尾羽によって養曳と尾曳、尾の伸長に工夫をこらして尾長鶏が作られました。欧米の銘柄鶏は大きな経済力と遺伝・育種学の技術をもとにして、集団としての産卵能力あるいは産肉能力を高めたものですが、日本鶏は愛好家が多年にわたる経験と勘とによって、一羽ごとに愛情の限りをつくして育てたものです。日本鶏の育成といえば、フランスの鳥類生殖生理学の大家ブノア教授を、伊勢松阪の長尾鶏飼育家に案内した時、「長尾鶏を飼うということは家族にとって苦勞の連続です」といわれた御夫人の言葉が忘れられません。この尾長鶏の長い尾を、土佐藩主山内一豊侯は参勤交代の行列を先導する槍の飾り鞆の羽に用いるために、極秘のうちに本種を飼わせたという一説があります。当時の飼育人の苦勞のほどが察せられます。

シャモは大唐丸と同じ江戸初期に渡来した闘鶏で、直立した大きい体型をもち、肉質もよく他種と交配したいわゆるシャモおとしとしての価値も高いものです。渡来の時期はもっと早かったのではないかという説もあります。闘鶏として薩摩鶏、肉用鶏として比内鶏をうみ、さらに長鳴鶏として声良が作られた。この肉質の良さに注目し、かなりの都府県でシャモおとしが作られ市販されています。チャボと烏骨鶏もまた徳川初期に渡来しました。烏骨鶏はその名のように骨まで黒く見え、黒、白、狸色の縞糸羽をまとい、趾数6を特徴としています。渡来時から薬効があると信じられ、今なお高価な卵が広く利用されています。チャボはインドシナ半島のチャンパ(占城)原産の矮小種で、内種は21に達し、最も人気の高い愛玩鶏です。

世界で日本鶏ほど多種多様な品種分化をとげた在来鶏集団は他にみられません。長く持続する繁殖能力あるいは優れた肉質にみられるように、鶏の遺伝子プールとしても、これほど価値の高いものはないといえるでしょう。我々の貴重な財産と

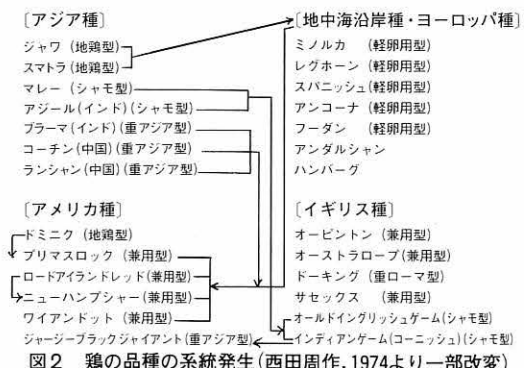


図2 鶏の品種の系統発生(西田周作, 1974より一部改変)

して、大切に保存していきたいものです。

世界の鶏

世界の鶏の品種数は、現在200余を数えます。イギリス家禽標準の初版(1865年)にみられる品種数は11ですから、比較的新しい時期に、しかも短い間に鶏の品種分化が進んだといえます。これらの品種は、体形別(地鶏型、マレー[シャモ]型、コーチン型)、用途別(卵用種、肉用種、兼用種、観賞用種)、原産地別(アジア種、地中海沿岸種、ヨーロッパ種、イギリス種、アメリカ種)に分類されています。鶏品種の系統発生図(図2)をみれば、鶏の家畜化が起こったアジアの鶏種がもとになって、世界の鶏が分化したことがよく判ります。アジアの鶏には用途別の分化はみられません。このことは近代的な育種改良が欧米で行なわれたことをはっきりと教えてくれます。アジアのジャワ種やスマトラ種は軽快な体型と強い飛翔力をもった野鶏型といえるもので、それが今も卵用種の主流であり続けるレグホン種へと改良されてきたのです。鳥類の大型卵は人にとっては、昔も今も貴重な栄養源であることに変わりはありません。一方、せっかく産んだ卵を横どりした野鶏は種を維持するために、不足の分を産みだしていきます。このようにしてひき出された高い産卵能力を、交配と飼養法の改良によってさらに高めていくこととなります。餌を大きな卵に換える能力はもともと野鶏がもっていたもので、人がそれをうまく利用してきたのです。

肉についてもまた全く同じことがいえます。私達は冬になればシベリアから日本へ渡ってくる白鳥のなかに、親と変らぬ大きさですがまだ褐色の幼鳥がまじっているのをよくみかけます。孵化後数ヶ月で親と同じ体重にまで成長するという早熟性、言い換えれば優れた餌の利用性は鳥類一般の特性で、しかも鶏は雑食性で飼い易いという特性をもっています。現在のプロイラー種は、もともと肉質の良いアジアのシャモ型マレー・アジュール鶏種をイギリスで改良したコーニッシュに、アジアの重種と地中海沿岸種とから作られたアメリカの兼用種を交配して作り出したものです。

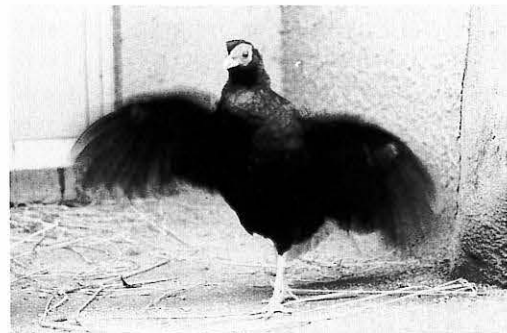
アジアの広大な森林に生息していた野鶏が、人里近い二次林嗜好性と時を告げる特性によって人と接触し、その産卵能力、早熟性(産肉性)、強い闘争性および雑食性(飼い易さ)によって人と生活をともにすることになり、今日みられるように豊かな卵と肉によって地球上の人の生命を支え、さらに愛玩鶏あるいは闘鶏として人の心に安らぎと喜びを与えてくれるのです。筆者はインド国境に近いネパールの森で野鶏を追った時、あるいはバリ島のシンガラジャで闘鶏に熱狂する人々の間に身をおいた時、鶏と人との触れ合いの長い歴史を想って感動しました。読者のみなさんもまた新年のひとつき、この愛すべき鶏と人との関係について考えて下さるよう希望します。

今年もキジ年？

読者のみなさんもお存知のように、今年も酉年です。十二支のうちの10番目になります。酉はニワトリのことですが、ニワトリはキジの仲間です。まあキジ年といっても大きなまちがいはないでしょう。私は動物園に入って今年で5年目を迎えますが、昨年の7月までは、キジ舎の担当でした。酉年にちなみ、短い間でキジ類について経験したことをお話ししましょう。あれこれしている間に過ぎてしまったこの4年間ですが、私にはあつという間に過ぎてしまいました。その間キジ舎ではいろいろなできごとがありました。

1年目、キジ舎の前任者と毎日顔をあわすことから始まりました。先輩はキジ舎担当6年の大ベテラン！うしろを付いて行くのが精一杯の毎日でした。さらに持ちなれない包丁を相手に餌作りで、「もうどきまぎ!!」でした。こんなこともしばらくの間だけで、すぐに一人でやって行かなくてはならないのですから、これぐらいで「ヒーヒー」言っていたのでは仕方ないのですが、なかなかたいへんでした。

1月に入ったある日、ふと鳥達を見渡してみると、「ディスプレイ」が始まっているではありませんか。これは大変!!もう繁殖期に入っているの



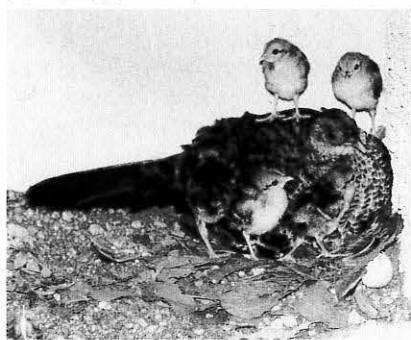
ウチワキジのディスプレイ

です。先輩に聞かなくては！餌は？何か準備は？これからどうなるの？後手後手にまわった1年目でした。

やっと1年が経過しました！というのが実感でした。仕事の流れ、順序は自分なりに理解できるようになりましたが、ただ目標がなく、そんなに大それた事ではないにしても、何かしなければと思い、先輩の過去6年間のキジ舎の記録を見なおしたところ、繁殖という2文字が目にとまりました。私も繁殖に力を注ごうと考えました。

私が過去29年間の動物を飼育した経験の中で、繁殖させることができたのは、ジュウシマツ、グッピー、エンゼルフィッシュ、などごく一般的な動物しかありませんでしたので、「繁殖=大変」という思いがまず浮びました。

オス同士の闘争、メス同士の闘争、縄張り争い、鳴き声、羽づくろい、採食、ディスプレイ、交尾、産卵、嘴上げ、フ化、育雛、展示、病気、駆虫薬、雌雄判別、等々ふだん使わない言葉が山積みの頭の中で、セイラン、マクジャク、ハイイロクジャク、ニジキジ、コサンケイの自然繁殖に成功するなど少しは好結果がえられたのは、私にとって大きな財産でした。

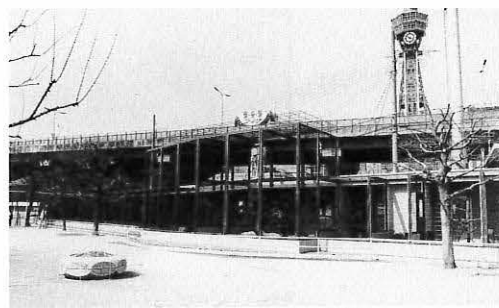


ミヤマハッカンの自然繁殖

一 の頃より私の頭を悩ませるできごとが、たびたびありました。それは仕事をしている最中のことではなく、帰宅後、しかも睡眠中に起こったできごとなのです。夢の中で、飛行機ぐらいのクジャクが、バッサバッサと羽音をたてて、大空をみごとに舞い上がり飛び去っていくのです。そして、手のひらにのせている卵が、どうあがいてもどうおさえようと、もののみごとに手のひらからこぼれ落ち固いコンクリートの上でこっぴまじんに割れつぶれていくのです。

これは悪夢だ!!寝ている間にも仕事のことを考えてしまって夢を見ているのは「これは一種の職業病だ!!」と思うぐらいでした。寝汗はかいているし、手足に力が入り翌朝体がだるく筋肉痛になっていたりして、子供の頃の歯ぎしりが復活する始末でした。遊びの夢以外見たことがなかったはずなのに、仕事の夢を見るなんてと思う反面、自分の真剣な面を見つけたのもこの時でした。

現在のキジ舎は1984年に建設されました。その後のキジ舎で飼育している鳥の種名、入園日(出生日)、出園日(死亡日)、産卵日、産卵数、



1984年に完成したキジ舎

フ化日、フ化日数、フ化数、成育数等々をノートに記入した記録が私の手元に残されていました。必然的に私もこの記録を継続していくことになりました。記録はしっかりしたもので、私の虎の巻のようなもので、大変役立つことが多かったのも事実でした。

産卵開始日、書いて字のごとく、ある鳥が卵を生み始める日のことですが、卵は生み落とされた日を記入し、計測するのですが、卵の長径と短径、卵重を記録します。卵の色、形等は写真を撮れば簡単に記録できるでしょう。



コサンケイの巣と卵

それらの事項を記録として保存していくことにより、それぞれの個体の繁殖時期や、産卵数、繁殖経験の有無、寿命、繁殖が可能な年齢などを知ることができます。しかしだからと言って安心ができるわけでももちろんありません。闘争し傷ついて体調をくずすものや、病気による体調不良、最悪の場合は死ぬ場合もあります。鳥たちが死亡し、データが取れなくなった時、飼育担当者としては悲しく淋しいものであるのは今も変わりませんが、それを乗り越えて記録を取り続けていき、そして後々役に立てればと思いいノートに書き込んだのが、現在の記録の積み重ねとなりました。先輩が6年間、私が3年半で約9年間ですが、「多すぎる」ということのないのが記録集です。以後の担当者にも役立ててもらいたいですし、今後も継続して記録して行って欲しいと考えています。

そうこうしている間に鳥達は年老いて死亡するものも出てきました。そのためケージがあいてしまったりする場合があります。そんな場合はすぐに同じ種の鳥あるいは他の鳥を補充します。記録を取って行くためには同じ種の鳥を計画的に導入し、展示していくのが理想だと思いますが、

時には入手が困難で他の種を入れなくてはならない時があります。そうならない様にする為の記録を集取し、計画的に世代交代を計らなければならないのですがなかなかうまくいきません。

新着の鳥が入るとどうしてもそちらに気をとられるのは当り前のことです。鳥にとっては新しい環境で落ち着かず、神経質になりやすく、十分広いとは言えないケージの中で暴れたりします。ケージ内のすべての鳥が気になりますが、そうせざるをえなくなるのです。

今年も新着の鳥達がやってきましたので、現キジ舎担当者はたいへんだと思います。新しく入ったのは、クロライチョウ、ケニアカンムリホロホロチョウ、ツノウズラ、カムリコリン、などの鳥達で私には飼育経験のない珍しいキジ達です。これから多くの記録が積み重ねられていくでしょう。みんな元気にキジ舎の仲間入りをしましたので動物園に来られましたら、ぜひ、キジ舎もご覧になって下さい。

鳥の種類のおどろかさにはなれませんが、キジ類だけでも多くの種類があります。当園では過去9年間にキジ舎で2目4科17属29種(ブッポウソウ目のワライカワセミを含む)もの鳥類を飼育してきました。私が担当したのはそのほんのわずかで、まだまだこれからの飼育係ですので、「ガンパロー」の気持ちは持ち続けていかななくてはならないと思っています。

アッと言う間にキジ舎からはなれなければならなくなり、今度はゾウとバーバリシブ、猛禽類の担当になりました。やり残したことは山ほどあって、結果の出る前に終わってしまったような気がしてなりません。「年に1回しか繁殖しないこと、飼育スペースの問題から、ほとんど1種1ペアしか飼育できない」ことから収集できるデータが少なく、わかったことは少ししかありません。また、収集できても1個体のものでしかないことであり何も語れません。「全国レベルのデータ収集で整理して行く必要があります、それによって飼育条件や個体による影響を取り除く事が可能である」というのが先輩の意見ですが私も同感です。なかなか全国レベルまで考えていけません、一刻も早く、しかし地道に確実に記録を収集し、整理すると同時に、自然環境等との関係をより多くの方々に知らしめていながらキジ舎のキジ類の繁殖に貢献していくことこそ飼育係ではないかと思っています。

1993年のキジ舎は新しい担当者、多くの新着のキジ類をむかえスタートしました。大きな成果を期待したいと思います。

(飼育課：西田俊広)



ハゲガオホウカンチョウ

南アメリカには、ちょっと変わったキジの仲間のホウカンチョウが多く生息しています。ハゲガオホウカンチョウは、当園最年長のキジです。



セイラン

東南アジアに分布するこの鳥は、クシノビほど有名ではありませんが、黄褐色の小円形の美しい模様の長い羽をもっています。



ニジキジ

オスは金属光沢のある青緑色の羽をもった美しいキジで、ヒマラヤ山脈に生息しています。天王寺動物園では毎年ヒナがふ化しています。

グランドZOO

キジの仲間たち

今年は酉年、ニワトリの原種のセキシヨクヤケイ(表紙)以外にも、天王寺動物園には多くのキジの仲間がいます。その一部を紹介しましょう。

(撮影：大川光雄)



アオミミキジ



シロミミキジ

ミミキジの仲間には写真の2種以外に茶色の羽をもったミミキジがあります。3種とも天王寺動物園のキジ舎で見ることができます。



ニホンキジ

日本の国鳥で、本州、四国、九州に広く分布しています。繁殖期には、オスの“ケーン、ケーン”という大きな声が野山にひびきわたります。



コジュケイ

中国南部、台湾に分布する鳥で、日本には1920年頃に各地で放鳥され広がりました。大きな声で鳴きますが、全長27cmの小さな鳥です。

公園 花だより⑧

★春の七草

春の七草は正月7日の朝に7種の草を入れた、かゆを食べると病気をしないという言い伝えがあって、古くから年中行事の一つとなっています。

江戸時代には若菜節、七種節、七種の節句などといひ、五節句の一つに数えられ、この行事は現在でも広く行われています。

七草は鎌倉時代には、セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベ(ハコベラ)、ホトケノザ(コオニタビラコ)、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン)でした。現在では、なんでも七種の菜があればよいとされています。

これら七草をおけの上にのせたまま板におき若葉たたきといひ「七草なずな。唐の鳥と日本の鳥と渡らぬさきに、七草なずな。唐の鳥と日本の鳥と……」、という鳥追い唄をうたいながら小さくきざみ、かゆのなかに入れてたいたといういい伝えがあります。

それでは春の七草それぞれ紹介をいたしましょう。

①セリ、[セリ科]、湿地や溝など流れのなかにはえる香気のある多年草で、白いひげ根を泥中に下しているところから、ネジログサの名前があります。また、ツマミグサ(古歌)ともいったそうです。

セリは早春から、湿地の溝などに繁茂するので葉、根も食べれますので、春から夏によくのびたところを採取して、浸しもの、胡麻和えにするとよい。セリ科にはセリによく似たドクセリがありますので注意して下さい。

②ナズナ、[アブラナ科]、野原や道ばたなどにはえる越年草で、春の七草のうちで最も有名です。

秋に早く種子から生じ羽裂した根生葉を地面に広げ、実が三味線のバチに似ているので、ペンペン草、パチグサなどの名前があります。

食べるには茹でて浸しものにしてもよく、また胡麻和えでもおいしく食べられます。非常にビタミンCを多く含みます。

③ゴギョウ、[キク科]、漢字では「御行」、時には「御鏡」とも書きます。越年草で、ほんとうの名前はハウコグサといひますが、普通はハハコグサ(母子草)と呼ばれています。この草は秋に種子から生え、茎は根元で枝分かかれし直立して30cmほどになります。葉は互生し、細いへら形で、茎とともに白い綿毛をかぶっています。春の終りから茎の先に黄色の頭花をいくつもつけます。開花中か

ら、かさかさしており、干しておく、色もあせずに良いドライフラワーができます。3月3日の節句の草餅に昔は必ずハハコグサを入れてついたようですが、今ではヨモギを用いています。山菜としては七草がゆに入れるほかはほとんど利用しません。葉にある綿毛が口にかすと、たまってしまうので、いつまでも飲みこめません。よく似た種にチチコグサ、帰化植物のチチコグサモドキがあります。

④ハコベ、(ハコベラ)、[ナデシコ科]、ハコベの古名でアサシラゲともいひます。多年草で茎は根元まで枝分かかれし地面をはいます。春に繁茂し、畑地、道路脇、庭のすみなどに普通に見られる雑草で、日だまりには冬でも青々と茂っています。

この草は、茹でて浸しものにすれば一種の風味があるので摘み菜として利用できます。

⑤ホトケノザ、(コオニタビラコ)、[キク科]、春の七草の五番目に登場するのがホトケノザです。越年草で、秋に種子から生じ早春に繁茂し、根生葉は束になって生え、葉は羽状に分裂します。頂羽片は大きく六角形で、細い茎を数本だし、先に黄色の頭花をまばらにつけ、輪のようにならんで咲きます。この草は、茹でて、あくをぬき、よくにがみをぬけば、和えもの、汁の実などに利用できます。

春の七草のホトケノザとはまったくちがうシサ科のホトケノザという植物があります。こちらは有毒ですので注意して下さい。

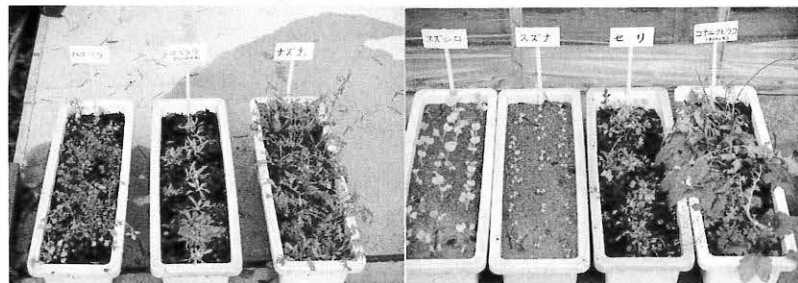
⑥スズナ、[アブラナ科]、カブラのことで、食用として畑で栽培されている越年草です。葉や花はアブラナに似ていて、根が平たく球状に肥大します。根菜、葉菜、漬物として食べます。

⑦スズシロ、[アブラナ科]、ダイコンのことで、食用として栽培されています。越年草で地中海沿岸起源のハツカダイコンが原種です。根生葉は長くて粗毛があります。根菜、葉菜、漬物にして、カブラ同様食べます。

以上、春の七草を紹介しましたが、なかには、セリ科でドクセリ、ホトケノザ、など毒のある植物がありますので十分に注意して採取して下さい。七草だけでなく雑草のなかにも数多くの食用になる植物があります。料理の工夫によって、色々の楽しみかた、味わいかたがありますので、時には健康のため、気分転換、ストレス解消に野山歩きをし、山菜取りに出かけられてはいかげしょうか。なかにはビタミンCなど多く含んでいる植物もあり、栄養食、健康食として、家庭菜園とまではいなくても、プランターなどで栽培してもよいでしょう。天王寺公園では園内、植物温室前で、12月15日～1月15日まで展示しておりますのでぜひご覧下さい。

秋には秋の七草の展示予定をしておりますのでこちらもお楽しみに。

《春の七草》写真左側から
ハコベラ(ハコベ)
ゴギョウ(ハハコグサ)
ナズナ(ペンペン草)
スズシロ(ダイコン)
スズナ(カブラ)
セリ
ホトケノザ(コオニタビラコ)



11/1. キリン舎に暖房を入れました。

11月2日 アミメキリンの“サキコ”がオスの赤ち

やんを1頭生みました。先月13日にはメスの子供が1頭生まれてい



ますので、これでキリンは5頭になりました。なお、オス親との同居はもう少しあとなるでしょう。

11/7. アカゲラ、ホンケワタガモが各々2ペア、ツノウズラ、カンムリコリン、マダガスカルシャコが各々1ペアが来園し、検疫に入りました。アカゲラは小鳥舎、ホンケワタガモは“鳥の楽園”(バードケージ)、その他はキジ舎に展示する予定です。

11/8. オオミズナギドリ、ホシハジロ、オオコノハズクを1羽ずつ保護しました。

11/9. 今年5月に生まれたタンチョウのヒナ2羽を両親から分離しました。

11月10日 クロライチョウ(写真)、ケニアカンムリホロホロチョウ各々1ペアが来園し



ました。両種ともに当園では開園以来初めての目見えです。クロライチョウは、西はイギリス、スカンジナビア半島から東は朝鮮北西部にかけて、ユーラシア大陸中北部に広く分布し、近年、生息地の破壊や狩猟などによって減少しています。ケニアカンムリホロホロチョウはアフリカ東部に分布するキジの仲間です。

11/12. 先月来園したマウラの検疫が終了したので、展示しました。

11月13日 ブタオザルが1頭生まれました。今

年は3月にメスの子が1頭生まれ



今月もおもしろ情報満載

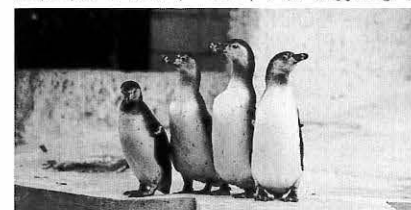
ZOO DIARY



11/15. 恒例のボランティア対象の“夜の動物園見学会”を行いました。

11/16. 毛が抜けている原因を調べるために、ブラックバックのオスを麻酔銃で捕獲し検査しました。

11月17日 今月2日に来園したファンボルトペンギンの検疫が終了したので展示しました。これでファンボルトペンギンは8羽になり



ました。来園した4羽はまだ1歳と若く、繁殖にいたるまでにはあと1、2年は必要ですが将来が楽しみです。

11月25日 大阪市は、昭和49年4月に上海市と友好都市提携を結び、その一環として動物交流を行っています。今年は第9次動物交流として上海動物園にマンドリル(写真)2頭とカリフォルニアアシカを1頭



贈ることになり、その護送と飼育技術交流をかねて動物交流団3名が上海にむけて出発しました。

☆テレホンサービス：771-9999

☆お知らせ

- トリの郷土玩具展
期間：1月2日(土)～2月11日(木)
場所：展示館
- 動物園のおじさんのお話
“トリの話”
日時：1月17日(日)、午後1時～
場所：レクチャールーム

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400

ピントが合いやすいフィルムです



カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究者)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株) **増田食品** 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

新作

貸出用「**楽しい天王寺動物園**」
ビデオ 19分(10本常備)

天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

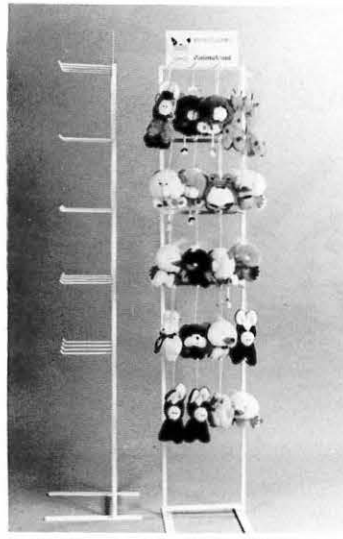
オールカラー

500円



園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

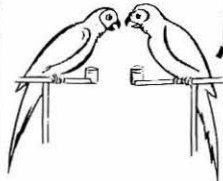


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

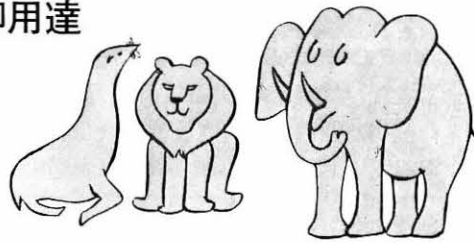
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL : (06) 704-8580
FAX : (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は...
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



「ほりたてミルクのおいしさが、生きている。」

雪印
オガール

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地に
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1993年1月10日発行(毎月10日発行)第29巻 第1号(通巻329号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員

(中山良三郎/村上昭/中尾啓一/樽本勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下実/長瀬健二郎/榊原安昭)
森本委利/竹田正人/永田健一/前田茂/大野尊信/野口秀高/早川篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)